資料6

ここにシールを
はってください

平成17年度

保護者用

親子関係の状況に関する保護者アンケート

ここにシールを
はってください

保護者の方へ

最近、日本の若い人たちの間で、様々な問題が急速に広がっています。これは若い人々だけの問題ではなく、今の社会のあり方が影響していると思われ、私たちはPTAとして社会の様々な面に目を向けていかなければならないと考えています。この調査はその一環として、家庭のあり方を考えるために実施しているものです。

高校2年生のお子さんの保護者の方がご記入ください。

アンケートは無記名であり、結果は、「○○という考えの人が何人(何%)いた」というふうに、人数や割合としてまとめられます。お答えになりたくない質問はご記入いただかなくてもけっこうです。また、記入していただいた質問票は調査協力機関に集計のためシールで密封されたまま送付され、学校やPTAでその内容を見ることは絶対にありません。どうか、ご協力をよろしくお願いいたします。

[調査実施]
社団法人全国高等学校
PTA連合会健全育成委員会

[調査協力]
京都大学大学院医学研究科
社会疫学分野

ここにシールを
はってください

アンケート用紙は、お渡ししたシールで封をし、名前を書かずに提出してください。
この調査について何か質問がありましたら、裏面の「お問い合わせ先」まで、ご連絡ください。

ここにシールを
はってください

あなたご自身についてお聞きします

問1) あなたの性別をお答えください。(どちらかに○印)

1.□ 男　　2.□ 女

問2) あなたの年齢をお答えください。(□に数字をかいてください)

□歳

あなたが今のお子さんの年頃のことを思い出してお答え下さい

問3) あなたの家庭ではどれくらいの頻度で家族全員で食事をしていましたか?(ひとつだけ○印)

1.□ 一緒に食べることはなかった
2.□ 月1回くらい
3.□ 月2回くらい
4.□ 週に1回くらい
5.□ 週2回くらい
6.□ 週2回以上
7.□ 毎日
8.□ 覚えていない

問4) あなたは家族とふだん話をしていましたか?(ひとつだけ○印)

1.□ まったく話をしなかった
2.□ ほとんど話をしなかった
3.□ たまに話をしていた
4.□ よく話をしていた
5.□ 覚えていない

問5) あなたは自分の親と心が通じていると感じていましたか?(ひとつだけ○印)

1.□ そう感じていた
2.□ どちらかと言えばそう感じていた
3.□ どちらかと言えばそう感じていなかった
4.□ 感じていなかった
5.□ どちらともいえない
6.□ 覚えていない

問6) あなたが何か悪いことをしたとき親はどうしましたか?(あてはまるものすべてに○印)

1.□ 自分は何も悪いことをしなかった
2.□ 何も注意されなかった
3.□ 口で注意された(しかられた)
4.□ たたかれたことがある
5.□ その他(　　)
6.□ 覚えていない

問7）あなたが何かいいことをしたとき親はどうしましたか？（あてはまるものすべてに○印）

1. □ 自分は何もいいことをしなかった
2. □ 何も言われなかった
3. □ 口でほめてくれた
4. □ ごほうびをもらったことがある
5. □ その他（　　）
6. □ 覚えていない

問8）あなたはその頃の先生に対してどう感じていましたか？（ひとつだけ○印）

1. □ いい先生だと感じていた
2. □ どちらかと言えばいい先生だと感じていた
3. □ どちらかと言えばいい先生だとは感じていなかった
4. □ いい先生だとは感じていなかった
5. □ 嫌いだった
6. □ 何も特に感じていなかった
7. □ 覚えていない

問9）あなたはその頃、学校をどう感じていましたか？（ひとつだけ○印）

1. □ 楽しいと感じていた
2. □ どちらかといえば楽しいと感じていた
3. □ どちらかといえばつまらないと感じていた
4. □ つまらないと感じていた
5. □ やめたいと思っていた
6. □ 特に何も感じていなかった
7. □ 覚えていない

問10）あなたはその頃、先生に何か相談したことがありましたか？（ひとつだけ○印）

1. □ 相談する必要がなかった
2. □ 相談したことがある
3. □ 相談できる先生がいなかった
4. □ 覚えていない

問11）あなたはその頃、心から信じられる友達がいましたか？（ひとつだけ○印）

1. □ いた
2. □ いなかった
3. □ 覚えていない

問12）あなたはその頃、だれか尊敬していた人がいますか？（ひとつだけ○印）

1. □ いた
2. □ いなかった
3. □ 覚えていない

「いた」と答えた方にのみお聞きします。

問12―1）それは誰ですか？（あてはまる人すべてに○印）

1. □ 父
2. □ 母
3. □ 祖父
4. □ 祖母
5. □ 学校の先生
6. □ 塾の先生
7. □ 芸能人
8. □ その他の有名人
9. □ その他
10. □ 尊敬する人は特にいない
11. □ 覚えていない

問13）あなたはその頃、実現したいと思っていた夢がありましたか？（あてはまるものすべてに○印）

1. □ なりたい職業があった
2. □ 勉強でいい成績をとろうとおもった
3. □ スポーツでいい成績をあげようと思った
4. □ 芸術関係でいい成果をあげようと思った
5. □ その他（　　）
6. □ 覚えていない

問14）あなたは高校生がタバコを吸うことをどう思っていましたか？（ひとつだけ○印）

1.□ かまわないと思っていた
2.□ どちらかと言えばかまわないと思っていた
3.□ どちらかと言えばよくないと思っていた
4.□ よくないと思っていた
5.□ 考えたこともなかった
6.□ 覚えていない

問15）あなたは高校生がお酒を飲むことをどう思っていましたか？（ひとつだけ○印）

1.□ かまわないと思っていた
2.□ どちらかと言えばかまわないと思っていた
3.□ どちらかと言えばよくないと思っていた
4.□ よくないと思っていた
5.□ 考えたこともなかった
6.□ 覚えていない

問16）あなたは高校生が性関係を持つことをどう思っていましたか？（ひとつだけ○印）

1.□ かまわないと思っていた
2.□ どちらかと言えばかまわないと思っていた
3.□ どちらかと言えばよくないと思っていた
4.□ よくないと思っていた
5.□ 考えたこともなかった
6.□ 覚えていない

現在の家庭生活についてお聞きします

問17）あなたの高校2生のお子さんの性別をお答えください。（どちらかに○印）

1.□ 男　　2.□ 女

問18）あなたの家庭では週に何回くらい家族全員で食事をしますか？（ひとつだけ○印）

1.□ 一緒に食べることはない
2.□ 月1回くらい
3.□ 月2回くらい
4.□ 週に1回くらい
5.□ 週2回くらい
6.□ 週2回以上
7.□ 毎日

問19）あなたは高校2年生のお子さんと話をふだんしますか？（ひとつだけ○印）

1.□ まったく話をしない
2.□ ほとんど話をしない
3.□ たまに話をする
4.□ よく話をする

問20）あなたは高校2年生のお子さんと心が通じていると感じていますか？（ひとつだけ○印）

1.□ そう感じている
2.□ どちらかと言えばそう感じる
3.□ どちらかと言えばそう感じている
4.□ そう感じていない

問21）あなたは高校2年生のお子さんのいいところはどこだと思いますか？（あてはまるものすべてに○印）

1.□ 健康
2.□ 運動能力
3.□ 学力
4.□ まじめさ
5.□ 容姿
6.□ 明るいこと
7.□ やさしさ
8.□ 素直さ
9.□ その他（　　）
10.□ いいところがない

問22）あなたが高校2年生のお子さんに満足していないのはどんなところですか？
（あてはまるものすべてに○印）

1. □ 勉強をしない
2. □ まじめでない
3. □ 明るくない
4. □ やさしくない
5. □ 素直でない
6. □ 生活態度がだらしない
7. □ その他（　　）

問23）あなたは高校2年生のお子さんがどういう夢を持っているか知っていますか？（ひとつだけ○印）

1. □ 知っている（それは何ですか：　　）
2. □ 持っていると思うが何か知らない
3. □ 持っていないと思う
4. □ 持っているかどうかわからない

問24）あなたのお子さんが中学・高校時代に何か悪いことをしたときどうしましたか？
（あてはまるものすべてに○印）

1. □ 子どもは何も悪いことをしなかった
2. □ 何も注意しなかった
3. □ 口で注意した（しかった）
4. □ たたいたことがある
5. □ わからない

問25）あなたのお子さんが中学・高校時代に何かいいことをしたときどうしましたか？
（あてはまるものすべてに○印）

1. □ 子どもは何もいいことをしなかった
2. □ 何も言わなかった
3. □ 口でほめた
4. □ ごほうびをあげたこともある
5. □ わからない

問26）高校2年生のお子さんは夜10時以降出歩くことがありますか？（ひとつだけ○印）

1. □ よくある
2. □ たまにある
3. □ あまりない
4. □ ほとんど/全くない
5. □ 夜外出しているかどうか知らない

問27）高校生がタバコを吸うことをあなたはどう思いますか？（ひとつだけ○印）

1. □ かまわないと思う
2. □ どちらかと言えばかまわないと思う
3. □ どちらかと言えばよくないと思う
4. □ よくないと思う
5. □ わからない

問28）高校生がお酒を飲むことをあなたはどう思いますか？（ひとつだけ○印）

1. □ かまわないと思う
2. □ どちらかと言えばかまわないと思う
3. □ どちらかと言えばよくないと思う
4. □ よくないと思う
5. □ わからない

問29）高校生が性行為をすることをあなたはどう思いますか？（ひとつだけ○印）

1. □ かまわないと思う
2. □ どちらかと言えばかまわないと思う
3. □ どちらかと言えばよくないと思う
4. □ よくないと思う
5. □ わからない

問30）あなたの高校2年生のお子さんは性行為の意味をいつごろ知ったと思いますか？（ひとつだけ○印）

1. □ まだ知らないと思う
2. □ 小学校のとき
3. □ 中学校のとき
4. □ 高校に入ってから

問31）最後に以下のことについてあなたのお考えをお聞かせください。

学校のあり方について 家庭での親と子供との接し方について

ご協力ありがとうございました。

平成１７年度
性教育/エイズ教育実施状況に関するアンケート

学校名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

対象学年：第　＿＿＿　学年

担当の先生の氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記入した先生の氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先電話番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

FAX 番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

提出期限：１月２０日（金）必着

※ WYSH 教育とは、８月に京都で実施した研修会に基づく科学的エイズ予防教育のことです。

※ 複数学年で実施した場合は、学年ごとに別の用紙に記入してください。

アンケートに関するお問い合わせ
京都大学大学院医学研究科社会疫学分野　木原雅子
TEL：075-753-4354　FAX：075-753-4359

あてはまる項目の□に○印をつけてください。

問１）平成１７年度２学期中に、研修会の予防教育（WYSH 教育）を実施しましたか？

① □ 実施した

② □ 実施しなかった　→　問１４へ

問２）アンケートの対象となったクラス全部に同種の授業が実施されましたか？

① □ 全クラス同じ内容を実施。

② □ クラスにより異なった。

付問）具体的にどのように異なっていたか教えてください。

問３）WYSH 教材のパワーポイントを使用しましたか？

① □ 全部使用した。

② □ 一部使用した。

③ □ コンドーム部分を使用しなかった。

④ □ まったく使用しなかった。

問４）WYSH 教材のビデオを使用しましたか？

① □ クラミジアの部分だけ使用した。

② □ 中絶の部分だけ使用した。

③ □ 両方とも使用した。

④ □ まったく使用しなかった。

資料７

問５）課題提供型グループワークは行いましたか？

① □ 行った。

② □ 行わなかった。

付問１）どのようなテーマについてグループワークをしましたか？

（　　）

付問２）グループワークでの話し合いは活発でしたか？

① □ 非常に活発だった。

② □ まあまあ活発だった。

③ □ どちらともいえない。

④ □ あまり活発でなかった。

⑤ □ 全く活発な話し合いにならなかった。

⑥ □ その他（　　）

問６）授業導入などで、ゲーム的な方法を使いましたか？（例：○×クイズなど）

① □ 行った。

② □ 行わなかった。

問７）その他、授業に関して特別な工夫をしましたか？
（例：○○のダンスを踊った、○○のビデオ[クラミジア・中絶教材ビデオ以外のもの]を見せた、グループワークをするテーブルに花を飾った、など）

問８）最後に先生からの個人のメッセージを送りましたか？

① □ はい

② □ いいえ

付問）それはどのようなメッセージですか？

問９）授業形態は男女混合でしたか？

① □ 男女混合

② □ 男女別

③ □ 合同部分と別部分を併用

問10）予防教育の時間数と実施月をご記入ください。

① □ １コマ→（実施日　　）

② □ ２コマ→（実施日　　）

③ □ ３コマ→（実施日　　）

問 11）予防教育はどなたが行いましたか？

① □ 保健体育教諭

② □ 養護教諭

③ □ 担任

④ □ 外部講師（　　）

⑤ その他

WYSH 予防教育を実施した印象（記入している先生の感想）をご記入ください。

問１２）良かった点を具体的に記入してください。

問 13）困った点を具体的に記入してください。

問１４）研修会（WYSH 教育）の教育とは別に、平成１７年度２学期中に、性教育/エイズ教育を実施しましたか？

① □ 実施した。

② □ 実施しなかった。　→　問 16 へ

問 15）教育の内容はどのようなものでしたか？（あてはまるものすべてに○印）

① □ 思春期の身体の発育・発達（初経、精通）

② □ 思春期の心の発達・不安及び悩みへの対処の仕方

③ □ 生殖に関わる機能の成熟（受精・妊娠）

④ □ 異性の尊重

⑤ □ 性に関する情報等への適切な対処

⑥ □ 適切な意思決定や行動選択の必要性

⑦ □ エイズ及び性感染症（感染症の予防）

⑧ □ 結婚生活と健康（家族計画、人工妊娠中絶の心身への影響）

⑨ □ その他（　　）

問１６）性に関する予防教育を実施する場合に、全般的に先生の学校で問題となっているのはどのようなことですか？

＊ 最後に ＊

WYSH 教育の授業風景の写真など、実施された授業の雰囲気のわかるものがもしございましたら、ご同封いただけたら幸いです。

滞日ブラジル国籍住民のHIV/STD関連知識・行動・予防介入に関する研究
- 2005年度報告書 -

岩木 エリーザ[1]; 小堀 栄子[2]; 山形 エレーナ[1]; 下郷 さとみ[1]; 木原 雅子[2]; 木原 正博[2];
他:ブラジル人留学生調査員10名; 協力: ブラジル人コミュニティーの雑貨店、銀行、企業
(1CRIATIVOS－HIV・STD関連支援センター; 2京都大学大学院医学研究科社会疫学分野)

《目的》

日本国の入国管理法改正以来、多くの外国籍の人々が仕事のため、来日し、2004年末現在、日本の人口の約1.55%を占めるにもなった(1)。そして、その1.55%の外国籍が、HIV/Aids報告の約25%を占めている。内、ラテンアメリカ諸国出身のHIV/AIDS報告がその3割を占めている。(図1)

滞日ブラジル国籍に関しては、1990年から来日者数が年々確実に増加し続けている。2004年末現在では、ブラジル国籍の外国人登録者数は約28万6千であった。(図2)

ブラジル国籍の外国人登録者北海道から沖縄まで全都道府県に渡って存在し、内、もっと登録者数が多いのが愛知県で約6万人、そして静岡県で約4万5千人、その他、1万人以上の登録者をもつ地域は、群馬、長野、滋賀、三重、大阪、神奈川、栃木、千葉、広島県などである。

滞日ブラジル人コミュニティー構成に関しては、6割が20-40歳代であり、男女比率は約1.3:1である。

そして、日本での長期滞在化も進んでおり、その定住化に伴って、祖国の家族を呼び寄せ、または、日本国内で家族を持ち、その子供も日本国内で育つ、と言う傾向が見られている。

しかし、長期滞在化傾向にもかかわらず、言葉、文化、習慣の壁は依然として大きく存在している。事実、情報源としては9割以上ががポルトガル語メディアであり、また、日本におけるブラジル人学校が50校以上存在する。うち、ブラジル教育・文化省公認校35校に在籍するのが5350人で、未公認校30校に在籍するのが2545人である(就学年齢の子供の約50%)。そして、日本の通常の学校に通っている生徒のドロップアウト率は高く、高校に進学する生徒数はわずか5%程度でしかない(2)。

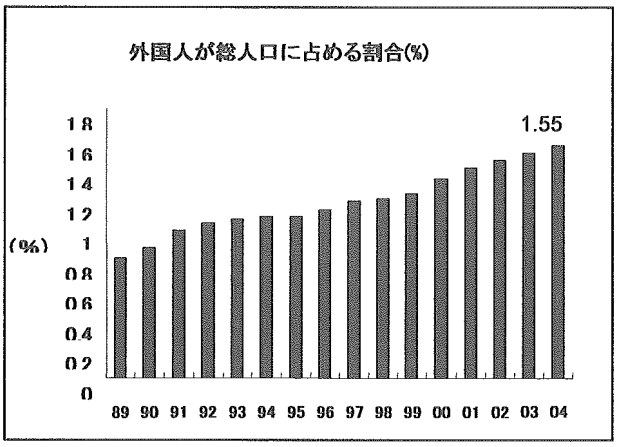
一般に、マイノリティグループやこのように主流社会から阻害されているグループはHIV感染を含み、情報や社会資源、社会的支援ネットワークなど、様々な点で不利な立場にあることは広く知られている。

さらに、HIV感染へのリスクに関しては、日本国内の感染報告数の増加、そして、母国の感染報告数の規模(約60万人)を考えると、このコミュニティーの人々が非常に感染しやすい立場にあることが分かる。

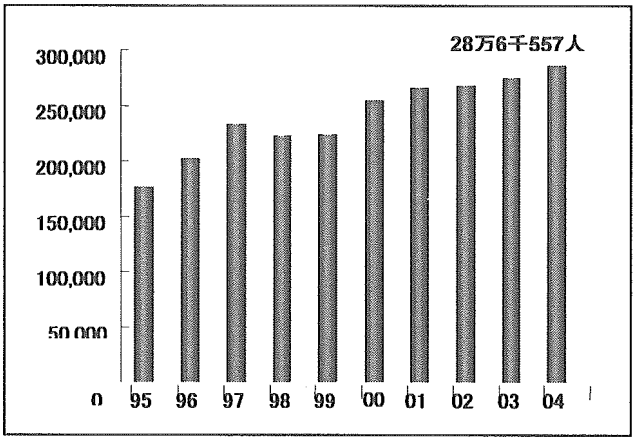
こうして、当研究グループは様々視点からコミュニティを観察し、HIV関連の知識・行動などを調べ、必要とされている予防対策を構築することを目指している。

なお、本年度は、今後の予防対策を検討する上での基礎を作るため、現在まで実施したアンケート調査の結果の分析を行った。

（図１：日本における外国籍の外国人登録者数の年次推移）



（図２：日本におけるブラジル国籍の外国人登録者数の年次推移）



《方法》

A）アンケート調査の実施方法：

ブラジル人が多く集まる場所を訪れ、無記名自記式アンケートを依頼し、その場で回収した。

B）アンケート調査の内容：

- 属性：性別、年齢、滞在地、滞在期間、子供の有無、同居人
- 情報源及び母語によるエイズ情報の獲得量
- HIV/AIDS/STD の一般知識、HIV 検査サービスの認知、法的知識
- HIV 抗体検査経験の有無、STD 検査経験の有無
- セックスパートナーの数、レギュラーとカジュアルパートナーとのコンドーム使用状況
- STD 及び HIV 感染への自己リスク認知
- 感染者への態度、感染者が身近にいるかどうかなど

C）アンケートの調査年とサンプリングサイト：

- 群馬県小泉町：1997-2005 年の間に 8 回
- 愛知県名古屋市：1999-2005 年の間に 6 回
- 愛知県小牧市：1999-2005 年の間 6 回
- 東京都千代田区：1999-2005 年の間に 6 回
- 神奈川県藤沢：1997 年に 1 回
- 静岡県浜松市：1997-2005 年の間に 5 回

上記の地域を訪れ、ブラジル銀行、ブラジル製品の雑貨や飲食店、ブラジル製品雑貨店が集まっているショッピングモール、ブラジル領事館などでアンケート調査を実施した。

回収したアンケート調査票の合計は 3880 件であった。

D）アンケート調査結果の分析方法：

統計パッケージ SPSS を用いて、調査項目を男女、年齢層(16-25 歳、26-35 歳、36 歳以上に設定、15 歳未満を切り捨て)、滞在期間層（3 年未満、3 年 1 ヶ月～6 年、6 年 1 ヶ月～9 年、9 年 1 ヶ月以上に設定)、そして、調査年別で分析を行った。

《アンケート調査結果の分析の結果》

A) 年齢と滞在期間：

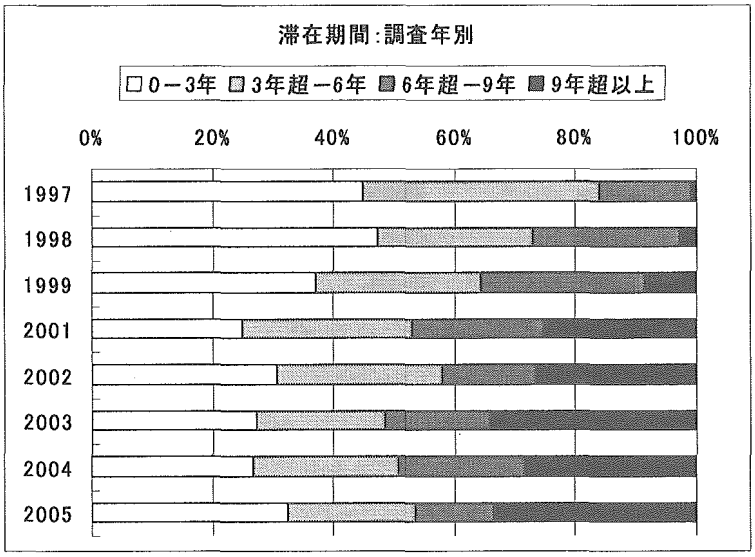
平均年齢は調査年が追うごとに、高齢化傾向であり、1997年では28.8歳であったが、2005年では30.6歳であった（表1）。そして、滞在期間も男女共に長期化傾向であり、全体で1997年では、平均滞在年数が約3年6ヶ月であったが、2005年では6年6ヶ月に延びていた。

一方、3年未満の滞在者は、1997と1988年では約4割であったが、その後、約2割程度までに減少し、しかし、また、2004年から3割に増加している。（図3）

（表1：平均年齢・平均対座年数　－　調査年別推移）

	1997	1998	1999	2001	2002	2003	2004	2005
平均年齢	28.8	27.9	28.5	30.4	30.7	31.1	29.7	30.6
平均滞在年数	3ヶ月6年	4年	4ヶ月9年	5ヶ月9年	6年	6ヶ月7年	6ヶ月5年	6ヶ月6年

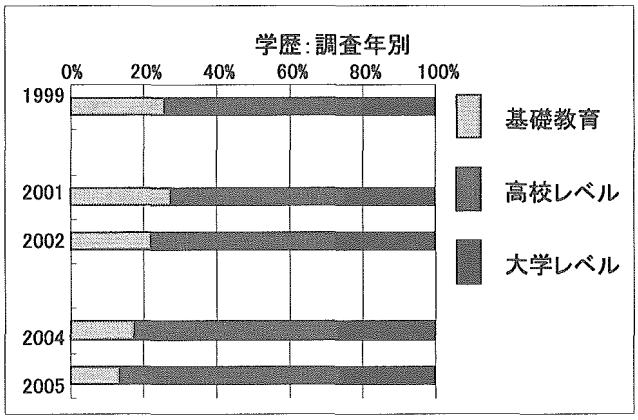
（図3：調査年別における滞在期間の分布）



B) 学歴：

ブラジルにおける学歴に関しては、高校レベルの学歴を持つ人が年々上昇し、基礎教育のみの人は減少している。また、大学レベルの人が、1999年から上昇し、2002年ごろからは約28%程度にとどまっている。（図4）

（図4：学歴　－　調査年別推移）



C) 居住状況（2005年のみ）：

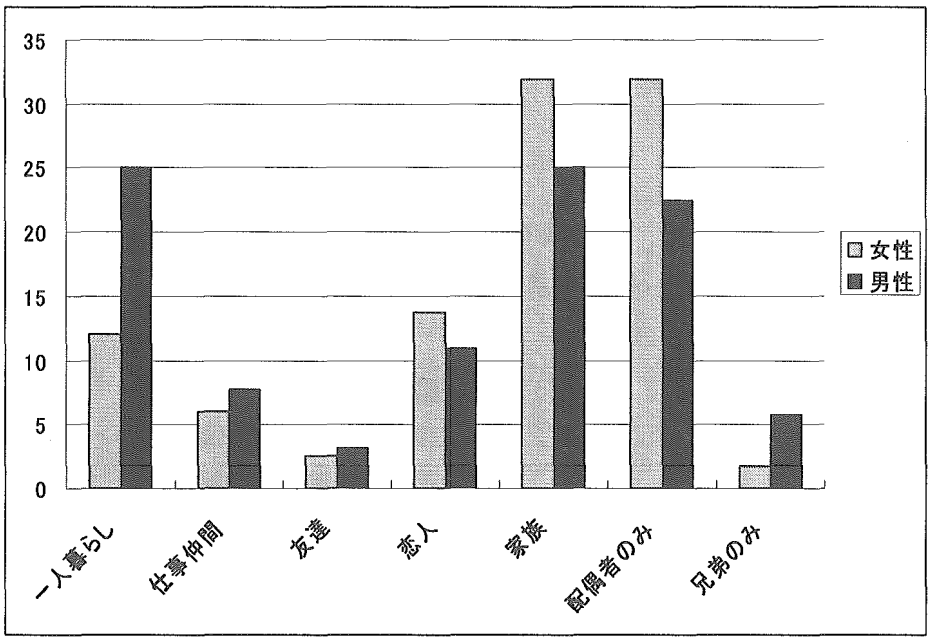
2005 年のアンケート調査では、居住状況について調べ、その結果は次の通である：

女性では「家族」そして「配偶者」と同居している人が最も多く、それぞれ約 30%であった。

一方、男性では、「家族と同居」は約 25%、そして「一人暮らし」が同じく約 25%が最も多く、その次に「配偶者」と同居していると回答した人が約 22%であった。

また、女性の約 14%、そして、男性の約 11%が「恋人」と同居していると回答した。(図 5)

(図 5：男女別の居住状況 - 2005 年のみ)



D) HIV 関連の一般知識：

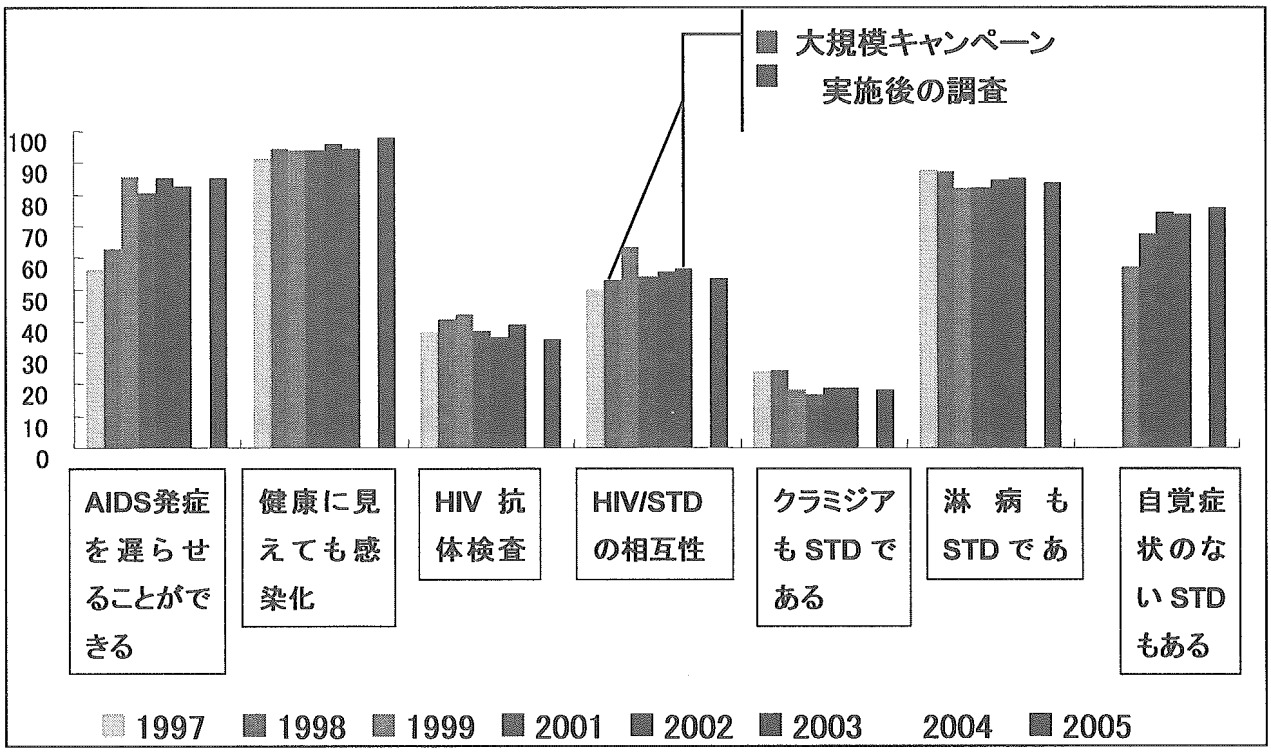
HIV 関連知識の経年変化については、「Aids 発症を遅らせることが出来る」と「自覚症状のないSTD もある」項目の正解率は 1997 年から 1999 年まで上昇傾向であったが、その後、それぞれ、9 割と 7 割の正解率でとどまっている。

また、「健康に見えても HIV に感染している可能性がある」、「淋病も STD である」などの知識項目に対する正解率はそれぞれ、9 割強と 8 割で高い水準が継続している。

しかし、「HIV 抗体検査の時期」に関しては、正解率が 4 割程度にとどまっており、「HIV/STD の相互性」も 6 割程度の正解率が続いている。

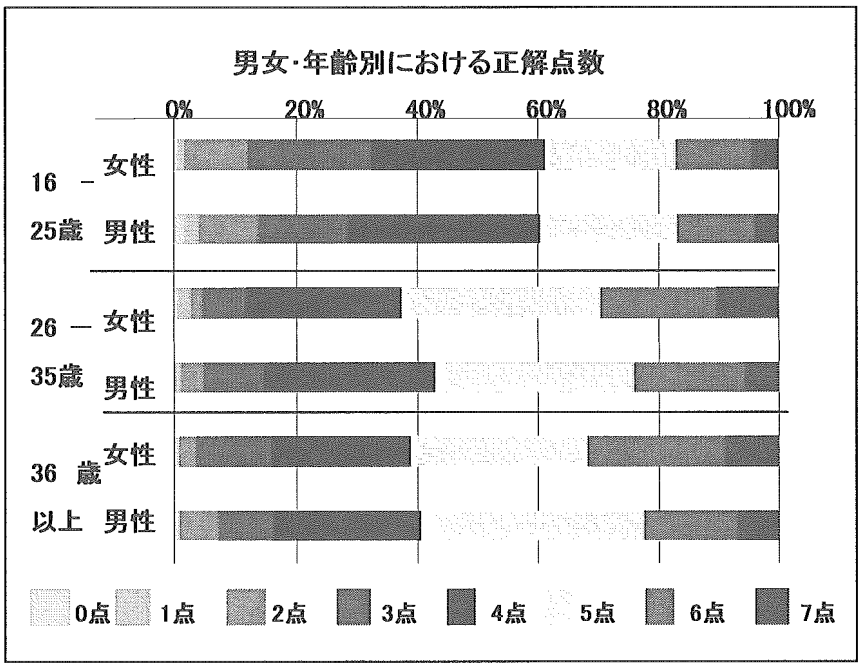
最も正解率が低い項目は「クラミジアも STD である」で、依然として 2 割しか正解していない。(図 6)

（図 6：HIV 関連一般知識　経年変化）



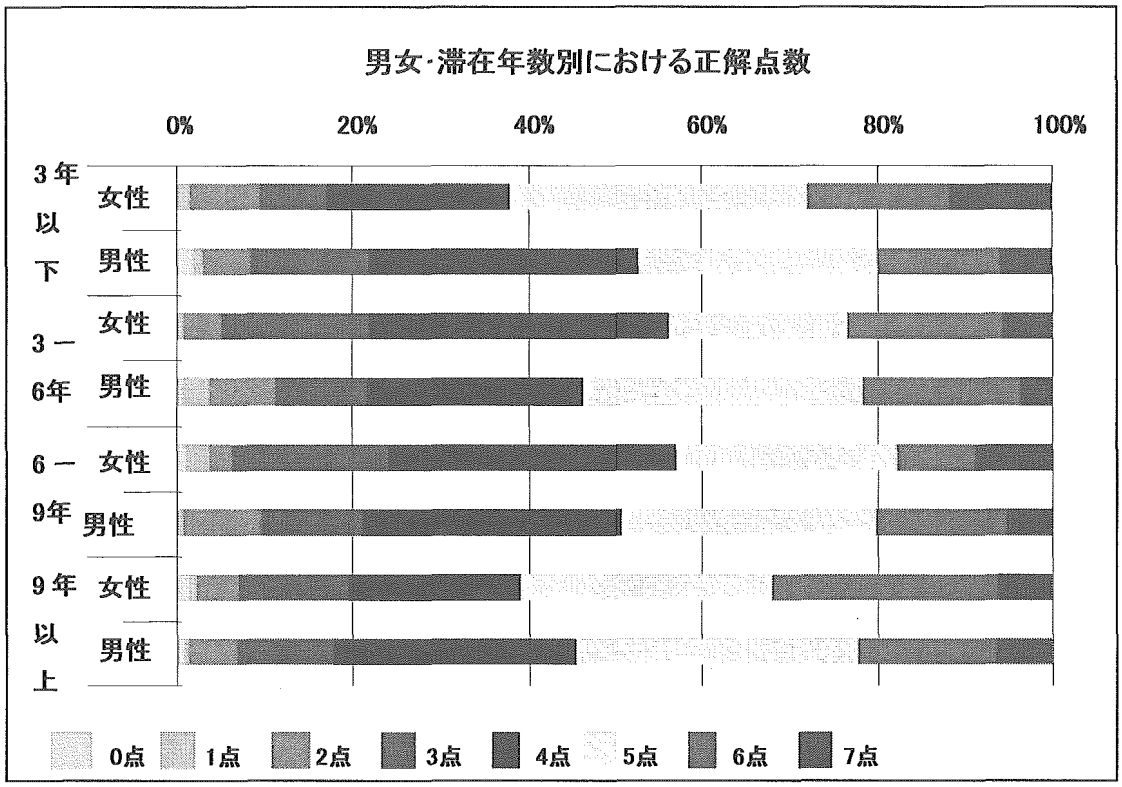
そして、過去 3 年のデータにおいて、上記の知識項目を点数方式（1 問正解に 1 点を与える）で集計を行い、男女を年齢層別で調べると、特に若い年齢層の点数が少なく、4 点までの人が 6 割を占めている。そして、26 歳以上の年齢層では、4 点までの人が約 4 割で、8 割が 6 点以上の正解点数をとっている。（図 7）

（図 7：2003-2005 年における HIV 関連の一般知識における正解点数　－　男女・年齢層別）



また、同じく、過去3年のデータにおいて、知識点数を男女と滞在期間別で調べると、はっきりとした傾向は見られず、多少滞在年数が多い層で、5点以上取っている人が多く見られる傾向にとどまっている。(図8)

(図8：2003—2005年におけるHIV関連の一般知識における正解点数 － 男女・滞在期間別)



E) 日本におけるHIV検査サービス及び法的知識：

日本におけるHIV検査サービスの認知率については経年変化分析においては、全体的に、「病院やクリニック」そして、「保健所」のHIV検査サービスに関してはその認知率が上昇している。

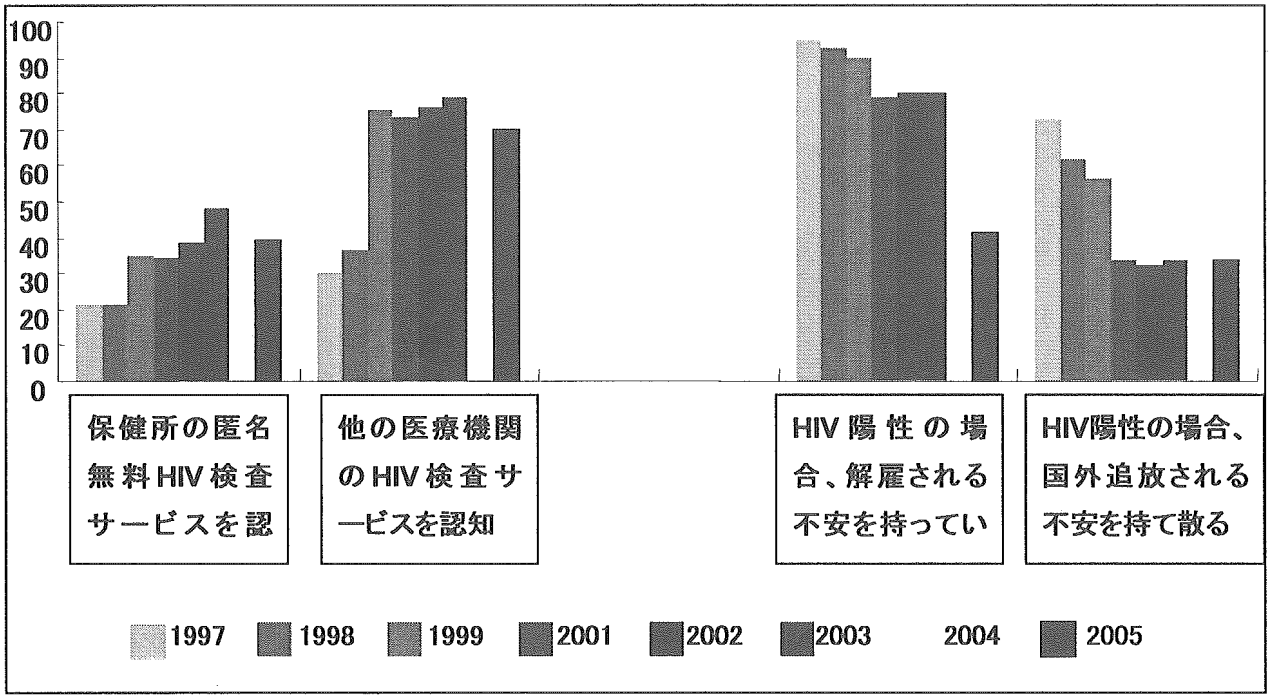
「病院やクリニックにおけるHIV検査サービス」の認知率は1997年は3割程度であったのに対し、2005年では7割に上昇していた。

「保健所の無料HIV検査サービス」の認知率は1997年で2割程度であったが、2005年では認知率は5割に上昇していた。

また、法的知識に関しては、HIV感染のために「解雇」される不安は1999年では約9割で、非常に高いものであったが、その後2004年では8割に減少し、さらに、2005年ではその不安が約5割まで減少している。

そして、「強制的に国外退去」される不安に関しては、1997年から1999年までは、7割から4割まで不安を感じている人が減少したが、それ以降、その不安が4割にとどまり、継続している。(図9)

（図 9：日本における HIV 検査サービスの認知率及び、法的知識 － 経年変化 ）



2003 年から 2005 年のデータにおいて、日本における HIV 検査サービスの認知率を男女、そして、年齢層及び滞在期間別で調べたところ、男女共に、年齢が高くなるにつれ、「病院やクリニック」そして「保健所」の HIV 検査サービスのことを知ることが判明した。

－男女・年齢層の分析：

「病院やクリニック」の認知率は 16-25 歳では女性で約 70%、男性で約 60%であったのに対し、36 歳以上では、男女共に 70%以上に上昇していた。

「保健所の無料匿名 HIV 抗体検査」については、16-25 歳の層での認知率は約 30%であったのに対し、36 歳以上の層では、女性で約 60%、男性で約 50%の認知率に上昇していた。

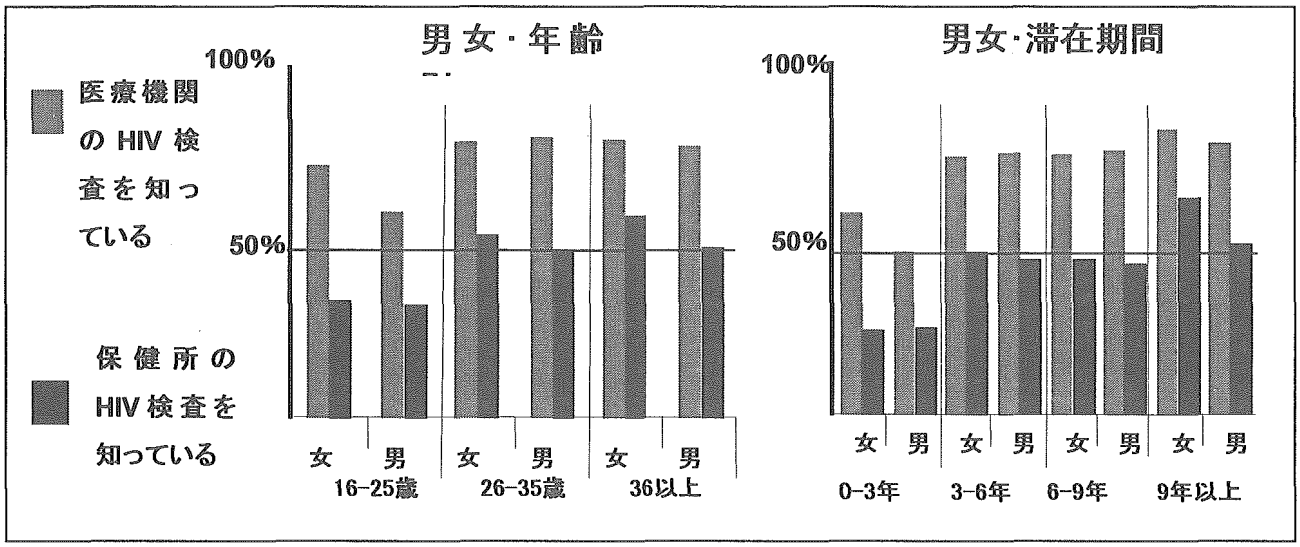
そして、同じく、過去 3 年間のデータにおける HIV 検査サービスについて、男女そして、滞在期間別で認知度を調べたところ、全体的に滞在期間が長いほどサービスの認知率が上昇していることが示された。

－男女・滞在年数の分析：

「病院やクリニックの HIV 検査サービス」に関しては、滞在年数が 3 年未満ではその認知率は 5 割程度であったが、9 年以上滞在している人の間では、その認知率は 7 割に上昇していた。

「保健所の無料匿名の HIV 検査サービス」については、滞在期間が 3 年未満の人では 2 割程度に満たなかったが、9 年以上の滞在者の間では、その認知率は約 50%にも上昇していた。特に、9 年以上滞在してる女性の間では、「保健所の検査サービス」の認知率は 7 割近くにも上昇していた。（図 10）

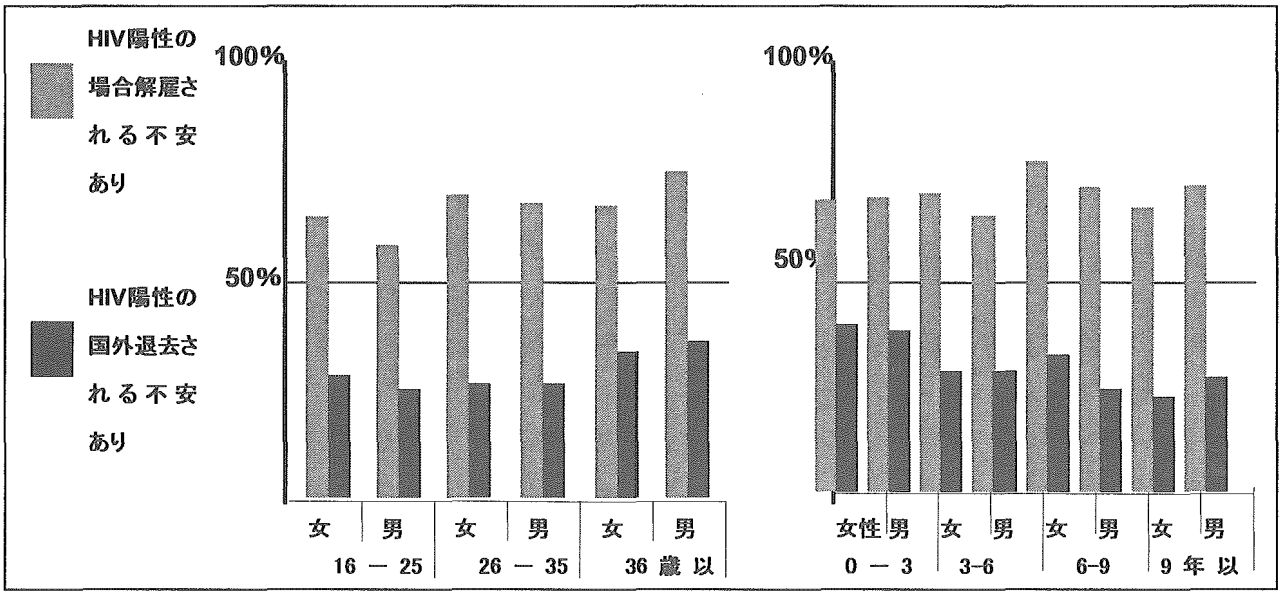
（図 10：2003-2005 年における日本の HIV 検査サービスの認知度　－　男女・年齢層・滞在期間別）



法的知識に関して、HIV 陽性の場合「解雇」される不安については、どの年齢層でもとても高く、7 割前後が不安を持っている、そして、「強制的に国外退去」される不安についても、特に年齢層間での差はなく、4 割前後であった。

そして、滞在年数で調べると、HIV 陽性の場合「解雇」される不安は 80%前後であり、「強制的に国外退去」させる不安は、滞在年数が長くなるほど、不安が減少していることが示された。（図 11）

（図 11：2003-2005 年における法的知識　－　男女・年齢層・滞在期間別）



F）日本における HIV 抗体検査の経験率：

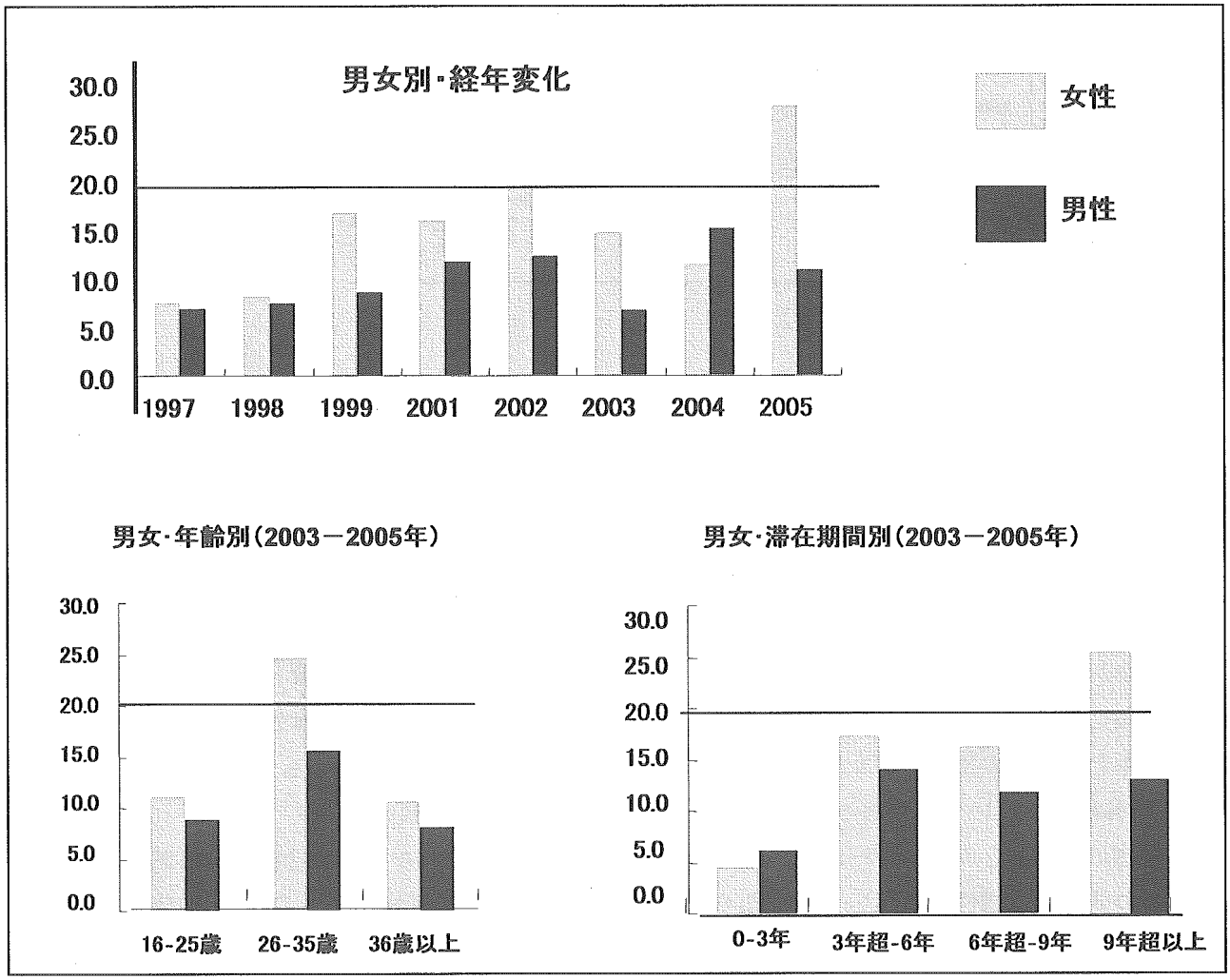
日本でのHIV検査の経験について、調査年が追うごとに検査経験率が上昇しており、1997年から2002年までの間で1割未満から約16%に上昇し、2003と2004年は少々減少しているが、2005年に再び約20%に上昇している。

男女別では、女性のほうが検査を受けていて、2005年では女性の約25%が検査を受けていた。(図12)

2003年から2005年のポピュレーションを年齢層で調べると、26－35歳の層が最も検査を受けていて、女性の約25%、そして、男性の約16%が検査を受けていた。

また、同じく、2003年から2005年のポピュレーションを滞在年数で調べると、やはり、特に女性の間では、滞在年数が長いほど検査経験率が上昇し、9年以上の女性滞在者では約25%が日本でHIV検査の経験をしていた。

(図12:日本においてのHIV抗体検査経験率 － 男女・調査年変化)

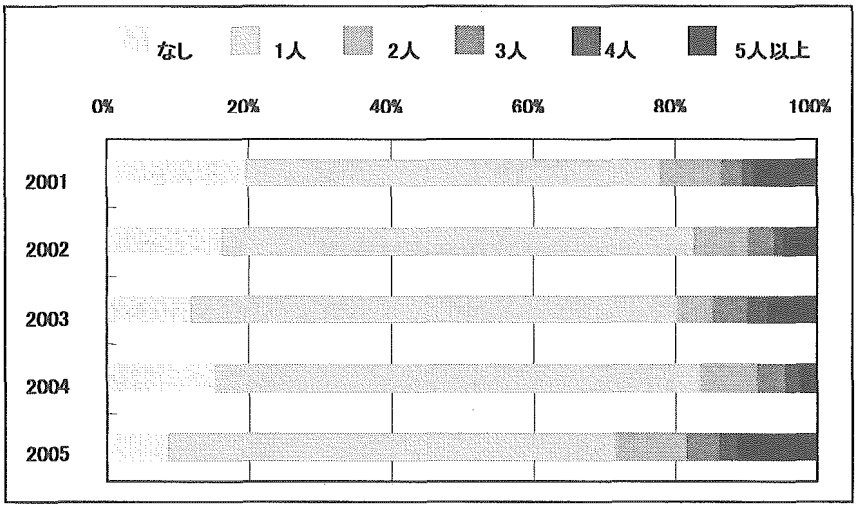


G) セックスパートナーの数：

過去1年間においてのセックスパートナー数に関しては、平均的に2.4人であり、女性では約1.6人、男性では約2.8人であった。

調査年別で調べると、セックスパートナーが1人でもいる人が増加し、そして、2005年では2人以上のパートナーがいたと回答した人が3割以上に上っていた。(図13)

(図13：過去1年間におけるセックスパートナー数 － 調査年変化)



H) コンドーム使用状況：

「特定の相手といつも又は、ほとんどいつも使用した」と過去1年間におけるコンドームの通常使用状況を調査年別で調べると、大きな変化は見られず、女性で40%前後、男性で45%前後であった。

しかし、「不特定の相手といつも又は、ほとんどいつもコンドームを使用した」と回答した人は、調査年においてばらつきが見られ、特に2001年と2003年の回答者の使用率が女性で45%前後、男性で55%前後、低いものであった。

「不特定の相手」とのコンドーム使用についても、女性の使用率は男性より低いものであり、全体的に、「過去1年間で不特定の相手といつも又は、ほとんどいつもコンドームを使用した」と回答した女性は約55%であり、男性では約68%であった。(図14)

2003年から2005年の調査回答者における、過去1年間でいつも又は、ほとんどいつもコンドームを使用したと回答した人を男女、そして、滞在年数で調べると、次の結果が得られた：

「特定の相手」の場合、滞在年数が3年未満の回答者における使用率は女性で約48%、男性で約55%であったのに対し、9年以上日本に滞在している回答者においては、女性の約38%、男性の約50%がコンドームをいつも又は、ほとんどいつも使用したと回答した。

「不特定の相手」の場合は、全体的に、女性の使用率は50%前後で男性の70%前後の使用率より低いものであったが、特に、滞在年数での差は見られなかった。(図15)

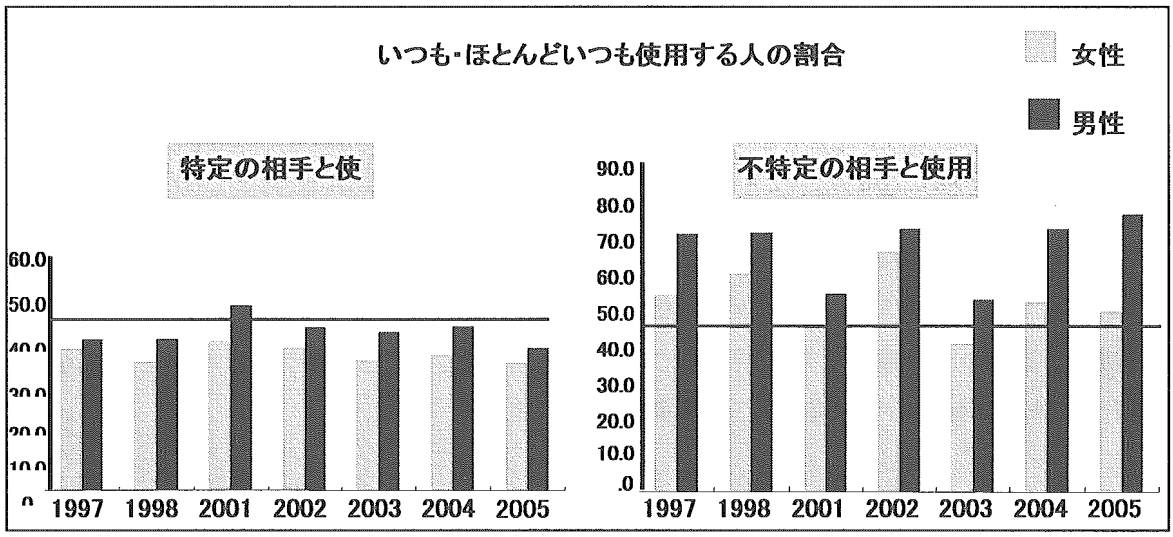
同じく、2003年から2005年のポピュレーショ

ンにおける、過去1年間で、いつも又は、ほとんどいつもコンドームを使用したと回答したものを男女、そして、年齢層で調べると、次の結果が得られた：

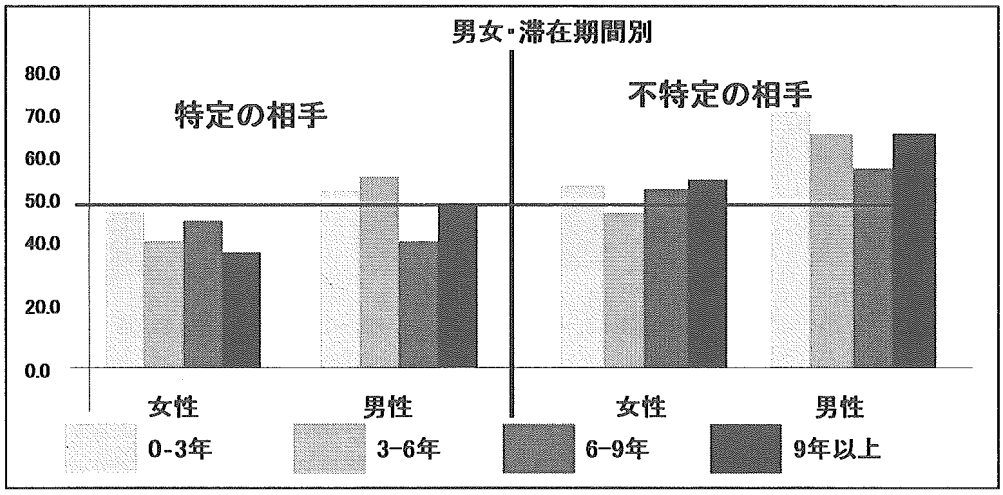
「特定の相手」の場合、男女共に16から25歳の層が最もコンドーム使用率が高く、女性で約50%、男性で約60%であった。そして、26から35 歳の層で使用率がいったん減少し、再び、36歳以上の層で、16から25歳の層には及ばないが、少々上昇していることが分かった。

「不特定の相手」の場合も、16から25歳の年齢層が最も使用しており、女性で約55%、男性で約70%であった。そして、女性では、年齢層が高くなるにつれ、コンドーム使用率が減少している、男性ではいったん25から35歳の層で使用率が減少し、その後、16-25歳の層には及ばないが、少々使用率が上昇している。(図16)

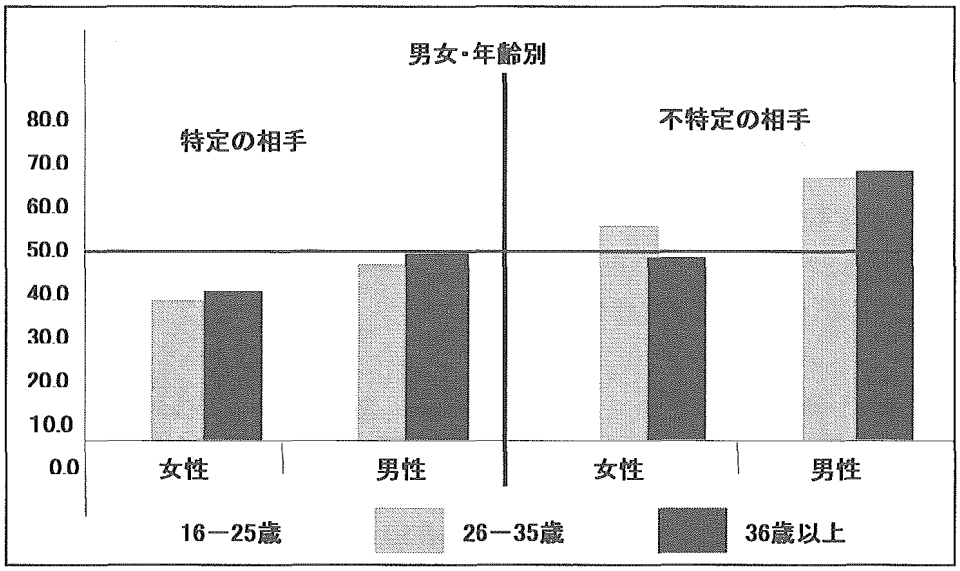
(図14：過去1年間におけるコンドームを「いつも又は、ほとんどいつも」使用した割合
－ 男女・パートナー種類の経年変化)



(図15：過去1年間におけるコンドームを「いつも又は、ほとんどいつも」使用した割合
－ 男女・パートナー種類と滞在期間別　(2003－2005年のみ))



（図 16：過去 1 年間におけるコンドームを「いつも又は、ほとんどいつも」使用した割合
－ 男女・パートナー種類と年齢層別　(2003－2005 年のみ)）

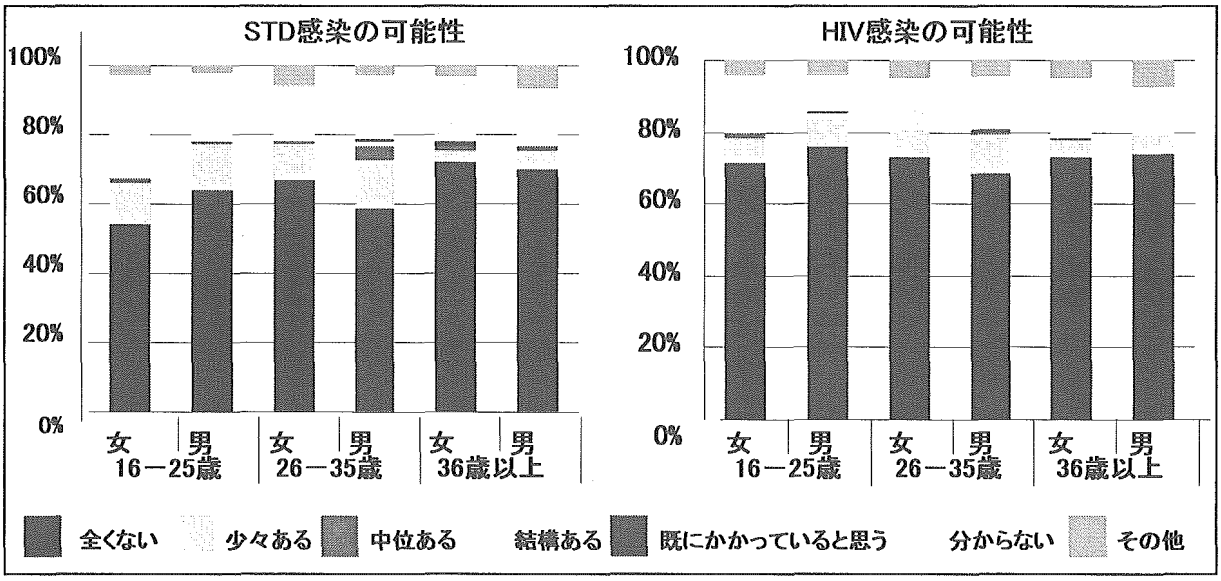


H) STD及びHIV感染への自己リスク認識：

自分がSTDに感染するリスク認識について、2003年から2005年のアンケート調査の回答者を男女及び年齢層で調べたところ、女性の間では、年齢層が高くなるにつれ、感染リスクが「全くない」と回答した人が約50%から約65%に上昇傾向を示したが、男性の間では、特に傾向は見られなかった。

そして、自分がHIVに感染するリスク認識については、全体的に70%位の回答者が「全くない」と回答し、男女の差は特にないことが示された。（図17）

（図17:STD・HIV感染への自己リスク認識：男女・年齢別 2003－2005年）



I) STDにおける受診：

2001年から2005年にかけて、STDのために病